

事務事業調書

平成26年度

事業No	180	課	市民課	係	総合斎苑	起案者	細井透
						決裁者	武智仁
事務事業名	総合斎苑施設管理事業				事業種別	定型事務	

1 事業概要

総合計画体系	6 市民が主役となる環境づくり 4 行政経営 1 行政運営 9 上記施策以外の施策 9 上記施策以外の施策			予算科目(会計)		一般会計		
				予算科目(款・項・目)		20-5-45		
				総合計画以外の計画				
				関連する総合計画の施策				
				性質区分	市の内部事務事業			
根拠法令	有	墓地・埋葬法等に関する法律						
法定受託事務	無							
公約・議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	一部委託	委託先	民間企業					
実施期間	開始	昭和39年度	経過	50年目	終了		期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				~になる			
事務事業の内容	総合斎苑の利用者が、いつでも穏やかに式典・火葬を行えるように、施設を維持管理し、心の安らぐサービスを提供します。							
改善・対策の履歴	施設の維持管理面で、特に環境面に注意をし、以下の修繕等を行い、不快感の抑制に努めました。 ①目に見える箇所では、駐車場の植栽・花壇植栽の維持管理、外灯の修繕を手掛け、 ②目には見えないが敏感に感じ取られる空調設備は、特に注意深く点検・修繕を実施しました。							

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	146,048	148,761	148,940	144,876	208,647
財源計	131,558	136,161	136,340	130,386	194,787
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他()	39,622	41,697	40,085	41,791
	一般財源	91,936	94,464	96,255	88,595
受益者負担金	39,524	41,591	40,000	41,577	40,000
職員人件費 (従事職員数)	14,490 (2.30)	12,600 (2.00)	12,600 (2.00)	14,490 (2.30)	13,860 (2.20)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動1	活動名 (活動内容)	式場の貸し出し	見込	500.00	500.00	500.00	500.00
			実績	527.00	523.00	493.00	
	指標名 (単位)	式場の使用許可(回)	活動の総事業費(千円)	750	750	750	
			活動にかかるコスト(千円)	1.42	1.43	1.52	
活動2	活動名 (活動内容)	施設の保守、維持管理業務	見込	365.00	364.00	364.00	364.00
			実績	364.00	364.00	364.00	
	指標名 (単位)	稼動日数(日)	活動の総事業費(千円)	145,298	148,011	144,126	
			活動にかかるコスト(千円)	399.17	406.62	395.95	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費(千円)				
			活動にかかるコスト(千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1				目標				
				実績				
	目標達成年度		目標成果指標値	達成状況				
成果2				目標				
				実績				
	目標達成年度		目標成果指標値	達成状況				

5 成果1、2以外の成果

成果	
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	火葬等施設の利用者は、人口の増加、高齢化による増加に加えて、周辺自治体の類似施設が老朽化、友引の休館などもあり、市外在住者の利用も増加しています。これらが要因となり、電気・ガス等の経費も増加しています。設備機器のこまめな保守点検・清掃により、施設の景観・機能の保持に努め、いつも快適に施設の利用ができるようにしているものの、休苑日が正月(1月1日)しか無いため、機器の常時稼動により設備全般に劣化が早く、他施設と比べ経費がかかります。
成果	

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
火葬等施設利用者の増加に伴い、電気・ガス等の経費が増加しています。葬儀会社には施設運営に対する協力を定期的に会議を開催し、利用者がいない時及び式場準備は最小限度の照明と空調で環境に配慮した企業活動でスイッチをこまめに切るなど経費の節減に協力依頼します。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	必要最小限のコストで最大の成果が得られるよう、改善の視点を持ち続けることは大切ですが、この事業の場合、単に効率性や有効性で図れない部分も多分にあり、ときには行政の判断で措置せざるを得ない場合もあります。 方向性としては維持・継続であり、利用者増に比例して徐々に拡充(火葬炉)せざるを得ません。